

# 科学暦 瓦版

第九号  
科学暦十年四月二十五日  
発行人 科学暦普及協会

60G0S0N  
10T 04 25

- 一、笑いが心を癒す「昔の大阪」
- 二、聞き書き「最適寿命論」
- 三、ちよつと見のキャンボジア
- 四、ケイタイ考
- 五、追掛け端折の記(一)
- 六、

一	二	三	四	五	六	七
ペー	ペー	ペー	ペー	ペー	ペー	ペー
ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ

## 「笑いが心を癒す」

角辻 豊

「癒し」は今や一種の流行語のように、最近よく使われている言葉ですが、この言葉の本当に興味するところについて、一寸考えてみましょう。表題は心の癒し、ですが、当然これに対する言葉として、身体の癒し、があります。いずれにしろ、何か薬にしてくれて、回復力が湧いてきて、明日の活力につながるようなもの、のようです。そのこと自身で何かの積極的な活動がある、とか作用や効果を生じるのではなく、取り敢えず傷つき痛んだところを回復しよう、という行為のようです。それと同時にやや受身の概念である気がします。昨今の多くの若者に見られる、何かをしてもらいたい、といった風潮にも合致して、この言葉がもてはやされているように、筆者には思われま

す。昨年(一九九九年)十月のフジテレビの「特だね」と言う番組の中で筆者は、癒しとは、究極のところ、副交感神経優位にすることだ、と断言したのですが、これは前に言ったことを一寸難しく、医学、生理学的に言い換えただけで、要するに心も身体もリラックスさせてあげる、という意味なのです。ちなみに、この逆の交感神経優位とは、全身全霊が緊張し、いざ戦おう、あるいは逃げようと言う構えになる生理的な状態なのです。それだけに、心理的には不安が高まり、驚き、怖れ、怒り、苦しみ、悩み、焦り、興奮、等の感情を伴っています。但し、悪い意味ばかりではなく、攻撃、反撃、開拓、冒険、探求、挑戦等の積極的な行為は、この状態で行ない得ません。あんまり「癒し」が流行るのは、最近の若者に、このような積極的な気風が衰えてきた証拠ではないかと危惧するのは、筆者の老婆心いや老翁心でなければ良いのですが。

一方「笑い」については、最近免疫との関係が頻繁に取り上げられ、今や笑いと免疫能力が上がり、癌や病原菌に対抗する力が強くなること病原菌(？)となつています。この免疫に対する効果は身体へのものなので、笑いは身体の癒しにもなることとが判るのですが、心への効果も非常に大きいのです。この心への大きな効果は、何と「笑いが人類文明発祥の根本である。」とさえ言つても過言でないことが最近判つてきました。「心を癒す」どころか、「心の働きを広げ、開発する」のです。何故そのようなことが推測されるのかは、後で述べるとして、そもそも笑いとは本質的にどういう現象なのか、を考えてみましょう。

先ず笑いにはニコニコやニッコリの微笑み(smile)とアツハツハツやウツフツの声を出す笑い(Laugh)とがあることは、御存知の通り。前者は気持ちが良い時に、後者は面白い時に、出てきますが、この二つは根本的に違いがあります。前者の微笑みはおいしいものを食べたり吸ったりして、飲み込んだときの口の形にソックリで、生き物に共通の、飲食の喜びがそのままその他の快樂にも広がって、この表情になったと誰もが素直に納得できます。ところが後者の笑い(アツハツハツ)のほうは、簡単には説明がつかないのです。実はあの進化論で有名なダーウインが、今から一三〇年ほど前に世界中のヒトや動物の感情と表情とを研究して表した本の中で、このヒトに特有の笑いについて「この奇異なる呼気の断続(つまりアツハツハツのこと)が何故に起こるのかは判らない。」と明記しています。以来最近までこれに対する適当な解答は無かったのです。

筆者は約八年前にこの笑いがある無害な刺激に対して軽い驚き、発見があり、しかもその状況が安全であると推定できる場合、に発現することを、笑いの初期と驚きの顔の表情筋筋電図の解析から証明しました。そして一見奇妙な呼気の断続は、刺激に対する驚きが軽いので全部の呼気を出し切つてしまわない(最初のアツ)、しかも、その行為自体が愉快であり未だ呼気が残っているので、同様のことを繰り返す(引き続くハツハツハツ)、で説明できたのです。従つてアツハツハツではあつても、決してハツハツアツとはならないのです。かくして、あの「ダーウイン二二〇年の謎」を解いたと自負しています。(詳しくは拙著「人は何故笑うのか」講談社、『笑いの力』家の光、『冗談の通じる人、通じない人』法研、等を御参照下さい。)

この様にアツハツハの笑いは、ある刺激が軽い驚きに匹敵するものであると評価する能力が無ければ絶対に発現しないのです。特に『軽い』と判ること、つまり刺激の評価、定量化が必須なのです。殆どの大脳の未発達な生物がしているような、全か無か法則 (All or Nothing Law) に囚われていては決して笑えないのです。これは非常に大事なポイントです。この能力が後々すごい結果をもたらします。

さて、癒しのほうに戻らねばなりません。笑いは本来、快楽の感情と密接なのですが、それ以外に、優越、弛緩(リラククス)の意味を持っています。そのわけは、群れを作る動物では、他の個体より優越した能力を持つことは快楽ですし、自分だけ快、は優越感の元になるので当然といえます。もう一つの弛緩ですが、笑うと自律神経系が身体にリラククスをもたらす副交感神経優位となるので、精神的にもリラククスとなるのです。癒しの本質に副交感神経優位がありますので、笑いが心の癒しになることは簡単に理解できます。快楽、優越は自分の癒しにはなりません、他人からは一寸色々でしょう。特に優越の笑いは相手には劣等感を与えることが多いので、余程気をつけねばなりません。あまりしないほうが安全です。結局素直な気持ちの良い笑いなら、周りも気持ちよく

受け入れることができ自他ともに癒されることになるのでしよう。

人類文明と笑いについて詳述する紙数が無くなつてしまいました。ヒントとして、リラククスは秩序破壊に通じること、創造は従来の秩序破壊なくしてはありえないこと、呼吸の断続が言語の音節に応用されること、快楽予期と優越の笑いの誤解から恥の感情が生じ性器を隠したくなること、刺激の定量化能力が火に対しても行われ得たこと、等を挙げておきます。これで賢明な読者諸君が筆者の言わんとすることを推察されることを祈りつつペンいやキーボードを叩き止めます。

### GOGOSONOT

60 銀河 0 恒星 0 新星 0 地球年

## 「昔の大阪」 パート3

学校の話 続き 中村 節

「豊中と櫻塚を半分ずつ分けてと言う風に清水谷も高津とかと半分ずつしたかもしれない」。

清水谷、大手前は府立。さつき言った実践は市立でわりと競争率は高かった。男の子では高津とか天王寺とか北野がありましたな。私立では

たんですね」

今度は主人と親の間の軋轢に苦しみました。おばあちゃんが主人になにか言っても、なんでも言う事きかんならんや、とよう揉めてました。

戦前の地図をコピーしてきてそれを見ながら話をしてもらった。

地蔵さん立ってない？

「たつてない」。

「おばあちゃんの住んではったところを細かく知らなかったの、ちようど 区域がまたがっていて 地図が判りにくいです。西区の地図をみたけれど本当に川が多いですね、今はほとんど無くなったみたい、橋も沢山あって・・・大阪が水の都というのがよくわかります」。

うちら覚えてるのはこの川原から船に乗って天神さんに行ったんや。長柄橋がかかったのはだいたい後や。毛馬から舟に乗って動物園やら行きました、はじめのうちは歩いていてました。

「今でもここは舟通っているよ。毛馬の閘門まで行って引き返してくる遊覧船がある」。

「昔仕事でも使ったんでしようね」。

そのへんは釣り場やった。毛馬の閘門に行ったら鯉が釣れる、いうてこんな大きな鯉が釣れたんでっせ。

「この辺の川には今はそんな鯉たたくさんいてる。天満橋から桜の宮

帝国ホテル通って毛馬の閘門、毛馬の閘門は通られへんからそこで引き返してゆつくり進んで二時間ぐらい。貸切にして宴会とかさしてくるやつたことあるよ。」

そこは 源八の渡しがあったよ、「源八の橋がまだなかったから。源八橋、造幣局の所はあたらしいもんなあ。」

毛馬よりちよつと上にも渡しがあったよ。新淀川の方にも渡しが遅うなつてもようけあったわ。そうそう豊里大橋、あれも長いこと渡しでした。

「源八橋、造幣局のところ。アメニテイ、帝国ホテル、新淀川、さくらのきれいなところ」

「このへんの通りにはいろんなものがあるよ。三十石舟の史跡とか」

八軒家もあった。八軒家は天満橋よりもつと上。

「三十石舟が京都から荷物を積んでやつて来て着くのが八軒家」

「おばあちゃん、今この辺に行きはつたらせんせん判らへんでしょやね。」

そりやあそうやと思います。のうなつてるもんの方がおおいですよつてに。国分寺位は残っていますやろな。このお寺はおおきいでもんね。国分寺の界限は土堀ばかりでした。家がのうて。

「鶴満寺はまだある？」

鶴満寺の裏手はすでに川原やっ

た。川に沿つてた・・・。

「おばあちゃんが判りはるかなあ、と思つて 広告をコピーしてきたんですけど なにか判るお店ありますか？」

いま考えてたんですけどあんまりなじみがないなあと思つて・・・。ああこのさんぺいはよう知つてます。ここはランプを作つてました。

「ガス灯なんかの？」

いやいや、普通のほやの付いた家で使うもん。へえ、こんなん今時使うところあんの？ いうたら、輸出。中国にしてましたんや。

そのころ東洋製紙でおおきな会社で、仕事を機械がするから機械を使う技師さんがようけ居ました。技師さんを入れるので立派な住宅でした。せやけどこのさんぺいは職人さんが仕事をしてたから、小さな店で、住んでるところもちいそうて、みすばらしかった。

「おばあちゃんのいうのは国分寺一丁目。ここに鶴満寺がある。鶴満寺が家の座敷から見えた。要するにこの辺でおばあちゃんは住んでた。どういう住所だつたんかな？」

私が住んでたのは南長柄。

「南長柄言うたけどそのあと長柄中とか言うようになつて。それから地名はどこに住んだ？」

一番最後に大阪市に編入されたときの住所」

東淀川区長柄東通り二丁目。墓の

筋で中通り言つてました。焼き場がありました。

「火葬場はいまでもありそうだけど。鶴満寺のそば。それでは判らん。いまなんていうのか？」

東淀川区いうのはなくなつていやるやろ？」

「いや 東淀川区はいまでもある」。そんなことは無い、天六界限は大淀区になつてる。

「いや、いま天六は北区。川から向こうに行かんと大淀区にならないう・・・。」

天神橋商店街。ずつと広い道があるやろ。その道を行つて。焼き場は今でもあると違うかな。南北の内側。柄が悪いところで・・・昔はそんな柄の悪いところやなかつたんやと思ひますねんけど、村としては何百年続いた村、北長柄村やつたと思ひます。

「その頃のご近所の街並み 商店街物売りはどんなでしたか？」

大きな買い物は天六から天神橋筋を通つて買いに行きました。ちいさなものは八百屋がありましたし、酒屋もありました。

「回つてくる売り屋は？」

豆腐屋は鈴をチリンチリンならしてきてました。方引きの車。お寺も光明寺いうて菩提寺があつて十八代前までの過去帳がある、と言われてましたが、戦争で焼けてしまいました。書き写しといたら・・・とい

うてる間に。

「お葬式はどんなでしたか？」

火葬場がすぐ近かつたので皆行列してあるいていきました。上等なお葬式はかごに載せて・・・わたしらみんな歩いていきました。そうそう親戚に道楽息子がいました。その人が墓茶屋いうのを親から譲られてやつていました。大阪からお墓に来て休む処も食事をする処もありませなんだからそういう人の為に墓茶屋というのがあつたんです。結構はやつてたようです。

平成十九年九月十六日没

享年 九十五歳



角辻豊先生の「最適寿命論」

早川 泉

(豊中高校同級生・会社顧問)

角辻君が逝つてもう二年になるのですね。実は彼のことはほとんど毎日のように想いだしているのだから遠い過去とは思わないのです。「亡友を

偲ぶ」などという殊勝な心がけではなく、物理的？に毎日思い出す仕掛けになっているのです。この偶然の仕掛けが二つあって、厭でも彼を思い出します。

筆者は東京の聖蹟桜ヶ丘という住宅だけの街に住んでいます。多摩丘陵の上で、マンションもアパートもオフィスも一切なく、緩やかに上下する坂道に沿って一戸建て住宅だけが広がる街です。早朝か深夜に散歩に出かけるのが日課ですが、携帯する音楽プレイヤーのスイッチを入れるといちばんに流れてくるのが谷村新司の「群青」という曲で、角辻君の十八番でした。酔って唄うと、この曲を朗々と歌い上げていたのを思い出します。さらに、歩を進めると、途中で作家の故山田風太郎氏邸が見えてきます。四百坪ほどの敷地に百坪ばかりの趣味の良い大屋根の屋敷です。山田氏は荒唐無稽な伝奇小説で知られますが、晩年には独特の乾いた、大胆な死生観を述べた作品がほとんどで、筆者は感じ入って読むのですが、この山田氏が角辻君と同じように「最適寿命論」を唱えておられたので、また角辻回想のスイッチが入るという次第なのです。

「最適寿命論」というのは「人間はいったい何歳ぐらいで逝くのが最適なのか？」という程度の仮説です。

自分の専門外でも知らざることなしの博識の角辻君からなんでも酒席で彼の解釈を聴いたものです。最初に耳にしたのはもう十二、三年も昔のことになるでしょうか。曰く、「生殖能力が無くなったら、人間の存在価値はもうあらへん」と言うのです。本質的にフェミニストで周りへの気働きが過剰なほどだった彼が本当にご婦人のいる場でこんな大胆なことを言うとは思えませんが、産卵や射精を済ますとすぐに死んでしまう魚もいますし、交尾中に雄を食べてしまう雌がいる昆虫も存在しますから、あながち暴論とは思えません。

首を捻る思いでいたところ、風太郎氏が朝日新聞に連載の随筆で同様なことを延々と書いておられるのを発見し驚きました。角辻説を耳にしてから数年後のことです。山田説によると最適寿命は六十五歳だと主張します。その理由の生殖能力の有無は角辻説と同じで、女性の平均閉経年齢は五十一歳だが、そこで寿命が終わっては子供の保育ができない、まあ、子供が十五歳程度に成長するまでとすると、六十五歳が妥当というものです。男性のなかには男の生殖能力はもつと長いぞと異論を唱える向きもあるだろうが、これは男女平等にせざるを得ないと言います。

山田氏も東京医大で医学を修めた人ですから、あながち与太とは思えま

せん。しかし、こんなことを朝日紙上に載せれば苦情の投書が殺到したろうと思いますが、たしかに殺到したがそれはむしろ賛意を表する老婦人たちからのものが多かったと山田氏は述べています。とすると、老婦人たちには長生きをして老残の姿を晒したくないという美意識もまった人たちが多いということでしょうか。考えさせられますね。

この角辻説、山田説を並べて考えると、角辻説は医師らしいリアリズムですが、山田説も即座に賛同しかねる気分です。そもそも、女性は何歳になるうとも、自分で家事、身の周りの処理ができる限り生きる有資格者です。そこへくると男性はどうでしょう。自分ひとりで生きていくのが困難です。現役の時、職場でいくら威張っていた人でも、困惑してしまいます。無為徒食の身になると、食糧や資源を浪費するばかりで、周囲に迷惑をかける存在になってしまいます。医師、弁護士、会計士などの個人として社会に奉仕できる人たちは例外ですが、退職の恐怖から組織の長などという地位に「余人をもつて替えがたい」という理由でしがみつくのでは老害を撒き散らし、下僚にとっては迷惑千万です。

何しろ、生きていくこと自体が迷惑ですから、なにか反対給付をして

約合いをとらないとならないのですが、これが難しい。排気、排煙だけでも迷惑なのに、よろよろと車を転がしたりすると邪魔になります。「事故など起こしてない」と主張してもそれは周りが避けてくれるだけでしょうからやはり迷惑です。実に「老いを生きる」ことは難しいですね。あの怖いものなどないような大都市の知事さんなどでも「老い」だけは恐怖でしょう。だから、惚け防止のためにオリンピック誘致などという計画をぶち上げられるのかもしれない。

角辻君の話から逸れてとんでもないことを口走りそうです。筆者は厭世観が強くとも自裁する強烈な意思の持ち合わせもなく、凡庸な日を繰り返して、彼の言う適齢期を過ぎしてしまいました。こんなことを書き散らすと、彼から「アホなこと言うな。ワシの言うのはちやうねん」とお叱りを蒙るかもしれません。「生は偶然、死は必然」と解つてはいいても、適齢期に死を選択できないのが弱く、哀しく、いとおいしい人間という生き物なのです。



## 「ちよつと見のカンボジア」

「息子の結婚式に臨んで」

足羽 りょう

スウース ダイチュナム トウマイ（あけましておめでと〜ございませす）

お正月を思いもよらずカンボジアの地で迎えています。ホップ・ステッブ・ジャンブ・ようやくハードルを跳び越せ、家族で息子の結婚式の祝いにやってきました。パートナーはチャーミングで利発そうな現地の娘です。ともに草の根の開発協力を携わっています。

人生いろいろ・・・・本当にそう思います。

今年もお健やかであらせませすように。  
一九九七年 一月 一日

これは十数年前の年賀状である。早いものですまさかのカンボジア。そしてその地でお正月を迎えるなんて、我が家では画期的なことだ。なにせ長男の結婚というわが家の一大事、それも国際結婚という・・・。

息子の結婚式に参列するまでの心の軌跡は並大抵ではなかった。婚約したいとの手紙が来て以来、驚愕し、動揺を繰り返した末、納得するのに二年かかっていた。それはさておいて・・・。いえ、思い起せば涙が逆流してきそうなのだ。だが、もう後ろは振り返らないと心に決め

たのだから。「手をかざしお前の坂を見つづける」と。

首都プノンペンを車で南下して五時間、ベトナムの国境近くのスヴァイリエン州に入る。結婚式の会場は花嫁の家だった。この国の結婚式は女性の家で行われるのが一般約だそう。早朝からセレモニーが始まった。前庭に置かれた祭壇に供物用の花や果物が飾られ、その前で身内や、村の長老たちとご先祖に結婚の報告することから始まる。一同ゴザに座り、祭司の先導によって皆で合唱する厳肅なひととき。

（思えば早いものだった。這えば立ての楽しみ、手をつないで臨んだ入学式の感動、肩を並べて歩けることのうれしさ、自尊心を多分にくすぐられた子育て時代を過ぎ、親なりの漠然とした望みもあった。それなのに・・・。何を今さら、十分に悩んでここまで来たはず）

感傷に浸っている一方で、切実さがわかない。むしろ異国の結婚式に好奇心満々で臨んでいる招待客のようだ。

会場の片隅では民族音楽が演奏されている。トローという二弦の楽器、ロネットという木琴、タンバリン、ボンゴに似たものもあった。曲はドミファソシとその半音で奏でる、けだるくノスタルジックなメロデーだ。その後新郎側は場所を移す。

そこには予め用意された色とりどりの果物・菓子・花が左右一対になって部屋いっぱい並べられていた。花嫁の家へ運ぶ土産らしい。その贈物を両手に掲げて花嫁の家に列を作って行進する。五〇人、いやもっと

いただろうか、本来なら花婿側の縁者ばかりの行列なのだが、事情を知っている集落の人たちがその役目を引き受けてくれた、女性らはあてやかな民族衣装を着て、先頭は先ほどの音楽隊、陽気な音楽を演奏しながら。新郎がふたりの介添人と男女の先導の子供とともに続く。新郎には左右から赤い傘がさしかけられていた。私たちは新郎のすぐ後ろを銀の器を掲げて慎ましく歩く。行列の両側には見物の人達が祝福してぞろぞろついてくる。このあたりから、劇中の役を演じているような気分になってきた。新郎新婦が主役なら、私たちは準主役といったところか。（と、するとさしずめ先ほど花嫁の家のセレモニーがシーシー？ この行進がシーシー？）

どこからか、アヒルの親子が伴走するようによち・よちとついてきた・・・この集落のメインストーリーには、政党事務所や、ホテルもあれば、食堂や日用品の店も並び、酒場もある。車もバイクも走る。その道路を牛馬や豚・アヒルの親子も通る。木陰では床屋が鏡と椅子を出し

て、客の頭を刈っていた。

シーン三？ 再び花嫁の家の前。錦糸の衣装に着替えた花嫁が両手を合わせて新郎の行列を迎える。互いに白い花のレイを首に掛け合い、家の中へと入って行く。

僧侶の立ち合いで式は始まった。長老の祭司が何やら唱え、向き合って座った二人の手が結ばれた。その手を聖水の壺に沈める。肩を並べて座り直し、手を合わせたままの姿勢で肘を床についた。そして居合わせ

た親族や友人によって次々と二人の手首に糸を巻きつけるのだ。糸を巻けるのは既婚者ばかり。僧たちが祝福の祈りを唱えてくれる。参列者も唱和する中、聖水や花びらを部屋中にふりかける。お香を聞き、円座になった参列者に回していく。二人の初めての作業は僧侶への喜捨。お皿に共同で盛り付けたご飯を僧侶の器に移していく。同席者も二人ひと組で器に喜捨していく。

シーン四？ 午後再び庭に出る。

円座に腰かけた身内の周りを、大勢の見物人が取り囲む。男女の芸人が三河漫才のような掛け合いの寸劇をして皆を笑わせている。ふたりのなれそめを面白おかしく説明しているそう。新婚の二人の髪切りの儀式もあった。同席者も鉢とスプーンを持って、彼らの後ろに立ち、

二人ひと組で髪を切っていく。独身時代の未練を断って、共白髪まで仲良くといった意味らしい。出席者参加の結婚式。とりわけ準主役の親の出番は多い。進行係の祭司は言葉が通じないので、説明に身振り手振りで汗だくだ。見かねた新婦の両親や出席者がてんで口を挟み、ゼスチャーで示してくれる。そのかまびすしいこと。神妙に手を合わせている主役の新郎は中断して通訳に回る。私たちは見様見真似で役柄を演じると、座は上手く出来たと言っは笑い、失敗したからと言ってはまた笑い、儀式は進んで行く。笑いは最高の国際語だ。昨夜からの感傷などどこ吹く風、第三者の立場で楽しんでる自分の気がついた。

### 夕方からは披露宴 シーン五？

新郎新婦が門前で招待客を迎へ、中にと誘う。披露をすることは法的手続きよりも意味があり、親戚や集落の人たちに夫婦と認められるそうだ。庭に置かれたテーブルに一〇〇人ぐらいの食事が用意されていて、食事が済んだ人から次の客へ入れ替わる。出席者の女性は絹のドレスを着ている人も多く見られ、貧しいながらもクメール王国と言われた古き時代の伝統を守っているのだろう。そんな人たちは足元は粗末なサンダルとか草履。男性は普段着の人がほとんどだった。息子に言わせると襟

のある白シャツが準礼服なのだ。この国も主食はお米。素材も料理法も味付けも違和感はない。牛豚鶏野菜などの調理もまるで同じだった。強いて言えば私は香草が気になった。それに朝方お祝いに頂いた生きた子ブタが、丸のまま焼かれてテーブルに運ばれてきたのは仰天した。果物は豊富だ。マンゴ・レーシ・バナナ・ミルクフルーツ・ジャックフルーツ等。水道設備も冷蔵庫もない。ビールや飲物のグラスに、どこで調達したかわからない氷を何度も追加してくれる。善意には善意で答えないと、と腹を決めた。ハエと虫対策に香草を燻してもてなしてくれている。

庭中に造られたステージでは余興がはじまった。(シーン六？ フィナーレ)

スチールギターやドラムも加わったの演奏に歌の飛び入りが続出しその騒がしいこと。日本人仲間も十五人ほど国中から駆けつけてくれた。いつの間にか踊りの輪ができて踊る、おどる。老若男女が。演奏に合わせて陽気に踊りだす。クメール独特の手指をしながら揺らして時間の経過とともに曲もスローテンポになって、皆の踊りがしみじみとした踊りになっていった。その中心不乱に踊っているおばあさん。不思議に刻まれた顔のシワは見られな

い、つやつやと、いや神々しくもある。生死の狭間を潜りぬけて、生きのびてきたことへの魂の揺さぶりか。ゆらゆらと動く腕の中には宇宙が一つ入っていた。花嫁は彼女の孫娘である。おばあさんはもとより、両親もポル・ボト時代の生の恐怖と辛苦を味わってきたそう。花嫁さへも四・五歳で強制労働に従事した体験がある。彼女や、とりわけ彼女の母親の涙を見て初めて心づいた。親の立場は同じ思いだ。大切な娘が幸せになるためと、私以上に悩んだに違いない。花嫁が愛おしく思えた。やっとお開きになったのは真夜中だった。

あつという間の十日間だった。しかし観光で訪れるにはまだまだ心が痛む。戦乱の傷跡がそこかしこに見られる。特にいたいたけな子供たちの傷つけられた姿や貧しさは正視できなかった。神の子孫(カンプチア)達に、穏やかな日々が一日も早く訪れますように。

### 「ケイタイ考」

猪野美子

先日、ケイタイを解約してきた。購入したのは平成十二年三月だったから、ざっと十年近く持ったことになるが、使ったのは翌年の秋頃まで

で、ほとんど無用だった。解約は当然だったが、使用料を積算すればかなりの額になり、ちよつと人には言えない。ここに書いてあるからばれてしまいが、まあどうってことでもない。

わたしがケイタイを使わなかったのは、簡単である。映画関係の仕事をしている女性がほとんど居なかったからである。知っている人にも自宅の固定電話を使って掛けていた。娘のケイタイにも同様であった。そんなほんの時々にも相手がケイタイなら、用件は最低で済ませた。つまりしかるべき用件があつて掛けるので、ダラダラと喋る必要は全くなかった。ダラダラと固定電話で喋るのは、相手も固定に出ている元同僚やその夫人にほぼ限った。非常に疲れるけれども、一時間近くも喋る場合がある。相手は迷惑かも知れないが、納得のいくまで掛ける。わざわざバッグで冬眠中のケイタイを出してまでこんなことをする必要がどこにあった？

ちよつと毛嫌いし過ぎているかも知れない。しかし、電車の中はもとより、カフェや、歩きながら、ひよつとしてトイレでもと思わせるケイタイの使い方を眺めると、第一に「それほど必死に掛けたい人が居るのだろうか？また、相手はいつ

も電話を待つほど暇なのだろうか」という疑問が起きる。日本は少子化などで孤独な人間が増えている、と強調されている。イジメの増加も大問題だ。あちこちで賑やかにケイタイを使っている風景とそのような世論とは馴染まない。第二に「そんなに延々と掛けたい相手が居るのなら逢って喋ればいいじゃないか」という素朴はクエスチョンだ。わたしは外出も覚束ないから長電話をするが、彼(彼女)らはピチピチして、すつ飛んで行けるではないか。それよりなにより、もしトキメキの会話なら、これほど無味乾燥もない。足を薄汚く組んだり、アクビをしながら「I LOVE YOU」もない。わたしならご免である。フランス映画では、全くと言っていいほどにケイタイが登場しない。だからか、凝ったラプストリーが描かれている。

年寄りの典型的言辭を弄しているが、ケイタイ文化は、ビジネスのためには半永久的に必須で、これからも拡大するだろう。でも誰もがそれを賛美していると解釈するのは間違いだらうと思う。少なくなった元同僚たちも、パソコンはほとんど持っていないし、やつと持ってくれたK氏も三ヶ月立ってもまだメールが出来ない。春には膨大な三巻組の『兵庫労働運動史』を刊行した主たる執筆者だとはとても思えない。先日「続編の執筆はパソコンでやっているの？」と聞くと「あきません。ワープロです」と電話口で泣いていた。とてもケイタイを操れる人種ではない。留守だとFAXで用件が書かれている。

海外のケイタイに電話をすると料金がジャンクと嵩むことをごく最近知った。それもよく判らないが、料金は相手持ちになるんだそう。なんでも知るのが遅い。遅過ぎる。旅行先から家族に連絡するのはごく普通にやるのではないか。帰国して多額の請求書がきても後の祭りである。わたしはもう旅行はしないから、これも他人様の話で、同情する必要もないわけである。

友人のKさんに「どうしてあんなにケイタイしまくるの？一緒にお茶を飲んで隣の隣もほったらかしているではないの」と尋ねたことがあった。「もう、貴女はそんなことも判らんの。バスに乗り遅れまいとするのです。一人置いておかれることほど怖いことはないのです、世の中はね。貴女は孤独に強いら判らんのでしょうね」と解説されたが、いまいち判らなかつた。寂しいなら逢えばいいじゃないか。単純にそうである。Kさんによると、メーリングリスト(ML)に入りながらROMで居るのも「バス降りたくなくい」の心理が働くからだそう。わたしは

あるMLを止めた。アホらしくなつた。非常に簡単。

ああ、結神科医の角辻豊さんなりせば、すぐに納得させて貰えたであろうに。

去年も同じことを書いたが、惜しい人を喪いましたねえ。会員の皆さんもきつとそうでしょう。

### 「追掛端折の記」(1)

宮崎 修二朗

タイトルは「おっかけはしより」と読む。

「着物のうしろのすそをからげて帯に挟むこと」(『日本国語大辞典』)。

いつも人様の後から、「遅れまい」と生きてきた、ケチなわが生涯の回顧録みたいなことを書きつづけようというのです。 さて・・・

やつがれば、故 角辻豊国手が創立なさつた「精風会」の常連ですから、まずはその人の名前の詮索から話を始めます。お名前の「豊」という漢字は、訓読みで「ゆたか」が一般的です。恐らく十人が十人、そう納得なさつておられたはず。ところが、その人は「のぼる」と読む、とおっしゃいました。長年、瓦版屋をやつて、幾らか世間を広く見てきたやつがれも、その時は絶句しました。「変わった名乗りだなあ」と。あなただつて、ご同様だろうと思えますよ。豊と書いてのぼるだなんて。でも・・・

戸籍法によれば、名前を表記する漢字は、常用漢字と人名用漢字の範囲内に限るが、その漢字はどう読んでもいい・・・ことになっています。名乗りに関する限り、ルール違反じゃないんです。世間一般の枠のそと・・・、自由が許されているんです。しかもそれは法律で保証されている。「間違つてるぞ！ 違法だぞ！」と取り締まる方がむしろ違法だという世間の常識を越えた世界があるんです。ために漢和辞典の『大字典』(1942年・234版)で「豊」の名乗りを調べてみると、とよ、あつ、かたの三例が挙げられています。『漢字源』(2009年・学研刊)に至つては、何となんと！ あつ・かた・て・と・とよ・のぼる・ひろ・ひろし・みのる・もり・ゆたか・よし・・・、十二の名乗りの例が集められていますし、手持ちの電子辞書を調べると・・・『デジタル漢語林7000』を使っていますが・・・さらに「ぶん」が加わっています。そんな例外が許されていることを、ご存知でした？ あなたは。

やつがれば、「のぼる」氏から変わった名乗りの例を伺つて以来、その

根拠は？と機会ある度に調べてきました。何年か経ったある朝、突然

《♪とよさかのぼる日のみ旗》

という唱歌の一節が唇かこぼれ落ちて、時間のフィルムが7歳…小学一年生のとき……、八十年前の時点まで一気に巻き戻されました。そんな歌詞が確かにあった。歌の意味も分からぬまま、確かに歌った記憶がある！と、『小学唱歌集』に当たって見たが、載っていません。でも《豊》と《のぼる》の語句を含んだ意味不明の歌詞の記憶は鮮やかに蘇ったのです。

(当時の祝祭日の唱歌は、今にして思えば、無茶でしたよね。学童には縁遠い文語調の歌詞。その意味も分からぬままに、唱わされた思い出は、皆さんもおありだったはずですよ。)

「とよさか」とはどう書く？

豊坂？豊栄？豊酒？豊境？・・・  
収容語数五十余万余語を誇る『日本国語大辞典』(2版・十四卷・二〇〇三年・三省堂刊)に紐ると、脱力するほど長年の疑問が解消した。

豊栄と表記する二字の形容動詞は「太陽がのぼり美しく輝くさま」であり、「豊栄登(とよさかのぼり)」は「朝日が美しく輝いてのぼること。またその時」であること、さらに「とよさかのぼる」は「転じて、人の権勢、仕事ぶりなどが他の追従を許さないほど栄え輝いている」こと。

いかにも出生男児の将来を言祝(ことほ)ぐ最高の名乗りだったのでは。勅選和歌集『金葉集』(千百二十七年成立)に撰者源俊頼の「曇りなく豊かさのぼる朝日には君ぞ仕へむ万代(よろずよ)までに」の使用例があつて、長い間の疑問氷解しました。

(追記) 以上の名乗りの由来を克子未亡人に報告しました。お話によれば故人は「豊の字の下部は豆であり、豆の蔓が空に『のぼる』からのぼると読む」といかにも「笑い学芸の副会長らしい落語的な由来の弁だったそうだ。

(つづく)

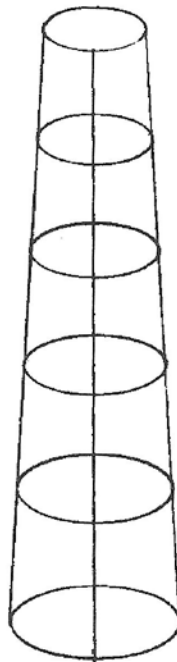


会報に掲載の広告募集  
次号に掲載いたします。  
一頁の五分の一 5,000円  
十分の一 3,000円  
お申込は事務局まで

科学暦普及協会事務局

芦屋市奥池町二十一-八  
角辻総合人間科学研究所 気付  
電話 〇七九七、二八、〇一一一

“イメージを建てる”



株式会社  
灘工務店

〒541-0046

大阪市中央区平野町

1-4-1

TEL

06-6228-0126

FAX

06-6228-0742

しづか楼

季節の懐石 ¥6,000~ (税・サ別)  
4名様以上

冬季限定:鴨・もろこ料理 ¥10,000~ (税・サ別)  
2名様以上

夏季限定:天然うなぎ料理 ¥10,000~ (税・サ別)  
2名様以上

〒520-0241 大津市本堅田2-17-10

電話 0775-72-1111

<http://www.sizukaro.com/>



次号掲載原稿募集…政治・宗教以外なら内容を問いません。  
二千〜四千字で事務局まで。

さし絵: わなか みずほ  
編集: 安積 聖夫  
科学暦 10年4月25日